

平成27年度第6回八幡地域協議会会議録（HP版）

日 時 平成28年3月23日（水）午後1時58分～午後3時34分

場 所 観音寺コミュニティセンター 第1・第2会議室

出席者（10名）

1号委員 池田満好 本多秀之 荒生栄治
遠田秀明 石川正志 長谷川明子 小松久美子
2号委員 佐藤康晴 小松幸雄 高橋知美

欠席委員 佐藤成亮 島井里美 後藤純子 阿部喜至夫

企画振興部 地域振興調整監 永田斉

八幡病院事務長 土井義明

八幡総合支所：支所長（兼）地域振興課長 後藤啓、建設産業課長 本間優子
地域振興課長補佐 荒川敏男、地域振興課長補佐 村上秀俊、
建設産業課長補佐 土田正人、地域振興課主査 鳴瀬勉

傍聴者： なし

議事日程

～地域協議会の市長報告会での提言内容について～

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 協 議
- 5 その他
- 6 閉 会

【協議の概略及びその結果】

本協議会は3月28日に開催される地域協議会市長報告会での市長への提言をまとめることを主とした会議の場となった。また、当局より生涯活躍のまち（日本版CCRC）構想について報告があった。

- 1 開 会

○小松副会長 本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。これより、第6回目の地域協議会を開催します。都合により欠席の委員は、後藤純子委員、阿部喜至夫委員、島井里美委員の3名です。

会議次第に従いまして、荒生会長からのあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

○荒生会長 どうも、皆さん、御苦勞さまでございます。今年度、最後の地域協議会になりますが、今日は3月28日に行われます市長への提言内容の検討に入る訳ですが、皆さんのご協力により良い提言が出来ればと思います。どうぞよろしくをお願いします。

3 会議録署名委員の指名

○小松副会長 会議に入る前に、会議録署名委員の指名を行います。番号順ということになっていますので、今回は、7番の石川正志委員にお願いしたいと思います。石川委員、よろしくをお願いします。

○石川正志委員 わかりました。

4 協議

○小松副会長 それでは早速協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

○荒生議長 それでは、最初に次第4の協議に入りますが、事務局からは1時間半ぐらいの意見交換と言われておりますので、ご協力願います。

それでは、最初に事務局より説明をお願いします。

○後藤啓支所長兼地域振興課長

～資料1、「過去5年間の市長への八幡地域協議会の提言項目と回答状況」及び資料2、「平成27年度八幡地域協議会活動報告書」を元に説明～

○荒生議長 ただ今、説明がありましたが、委員の皆さんから何かお聞きしたいことがあれ

ばお願いします。

○**遠田秀明委員** 平成22年度の提言の「うまい米づくりのイベントについて」、升田の米について滝の里ファームの名称で1月29日の山形新聞に掲載して大きくPRを行っていた。現在の状況を支所でわかれば説明願いたい。

○**本間優子建設産業課長** 現在の状況は把握していない。

○**佐藤康晴委員** そのきっかけは、おそらく酒田市で取り組んでいる事業で平成26年産の日向地区の「ひとめぼれ」が上位に張り付いたとして、平成27年度をどうにかしようかとなったが、ほとんど収穫が終わって倉庫に入ってしまったので取り出せなかった。池田善幸さんが、たまたま一番最後に家にあった米を使おうということで、滝の里ファームの名前で酒田市から買ってもらって、事業に使っているようだ。

○**本間建設産業課長** 支所経由でなく直轄的なものであり、情報は知っていたが状況を把握してなく申し訳ない。

○**荒生議長** 市長に提言ということで、今年24項目の意見交換がありましたが、いくらかに絞っての提言になりますか。

○**後藤支所長** 今までを見ると3～4つに絞っている。

○**小松幸雄委員** 八幡病院の在り方ということで、日本海病院と統合した場合、病院機構から医師4人、週2回ほど整形外科の担当医師を派遣したいと新聞に載っていたが、それ以降は新聞にも載らないし情報も流れてこない。現在の状況をわかる範囲で説明願いたい。

○**土井八幡病院事務長** 今年の2月に各コミセン単位で説明会を行ったが、その時の意見を集約しながら、現在、健康課のほうで基本構想というものをまとめようとしている。その基本構想の中に、診療所になった場合の医師や看護師の体制とか診療科目は何にすべきか

や整形外科を週何回にすべきか等、具体的なものを基本構想の中に盛り込んだ上で、4月頃までまとめて、5月頃にまた地域に説明会に入る状況になっている。現時点では、基本構想がまだまとまっていない状況なので、すみませんが、これ以上の話はできない状況です。

○小松幸雄委員　すると、新聞に載っていた記事は、どこから出た情報なのか。

○永田地域振興調整監　それは、おそらく3月議会の一般質問で本多議員より八幡病院に関して質問があり、その際の答弁の内容が掲載されたと思われる。その中でも、説明会に入って地域の方々から色々な意見があり、それらを盛り込んだ基本構想を現在まとめようとしている。まとめ次第、それを元に地域に説明に入るということで一般質問では答弁していた。

○荒生議長　他にどうですか、皆さん。

○本多秀之委員　今の八幡病院の件でいくつもの項目があるが、これらを2～3つ上げてゆくものなのか、あるいはある程度集約して上げていくものなのか。

○荒生議長　4つの地域を回った際に同じような意見が出ていると思われるので、集約したもので良いと思う。

○本多秀之委員　今年度の協議の項目として、病院の他に地域おこし協力隊以外では観光関連があり、他に子ども関係の項目がある。

○荒生議長　市長報告会が28日ということで集約するにも日数もないが当局でうまくまとめてもらいたい。

○池田満好委員　これまでの状況を見ると提言の項目は3つくらいとは思っていた。病院関係と育児支援体制と観光PRの3本に集約できるのではないか。各項目、頭は一つにしても協議した内容を取り入れて1本にまとめることが良いのではないか。ジオパークの件もあり観光面は外すことは出来ないだろう。

○荒生議長　観光面が1つと、子ども関連が1つ、病院を入れて合計3つということですね。

○小松幸雄委員 観光の関係で、酒田市の場合、道の駅構想の情報がなかなか流れてこないが、どう考えているのか提言に入れてもらいたい。

○永田調整監 お手元の資料2の報告書はこの形で市長に届き、それをまとめた資料1のような提言をしていただいている形になっている。提言書と活動報告書は一緒にお持ちすることになる。

○池田満好委員 報告書から抜粋ではなくて全て行くという形ですね。

○荒生議長 道の駅については、観光面で是非作ってもらいたいということか。

○小松幸雄委員 遊佐町にしろ庄内町にしろ、一生懸命動いている。酒田市も当初、声があったが現在は情報も流れてこない。

○後藤支所長 今、配布しているのは昨年度の提言書であり、それに活動報告書を添付して提出している。

○池田満好委員 八幡は升田の奥の滝と「たわわ」ぐらいしかなく、それぞれ良い部分があるが、観光面で全体をもう少し整備することが大切である。狭いトイレの問題や大型の観光バスを止めることが出来ない等、課題がある。あれだけの鳥海山を背負っている訳なので、観光面での施策の充実を図っていただきたい。例えば、道の駅的なものの建設が整備になるし八幡の観光PRにもなる。

○荒生議長 今ある観光資源を充実した形で進めてほしいということですね。

○高橋知美委員 子どもの遊び場については、きっちりしていただきたい。夜の9時頃にバスの停留所の中で子ども達が何かやっていた。そういう所でしか集まる場所がないことにも原因があり、一室だけでも開放して、のびのび遊べる場所があればと思われる。

それから、今の観光への充実ということで施設の充実というのは大事な事とは思いますが、例えば、山の車両駐車場の終点が大量の車で渋滞していることがあり、そういった整備をすることで、観光客が多くなっても対応出来るし鳥海山を楽しむことが出来るのではないか。一方、関東地方のある山では、車の排気ガスで山が荒れたりしている等、問題が起きており、観光客を集めるなら集めるなりのルールや規制作りで山が痛まないようにしてほしい。

それから、自分の知人がこちらに来た時、困ったのが宿がないことだった。山登

りしたなら、その後ほっと一息出来る場所、みんなが立ち留まれる場所がないと観光客が来てもただ通り過ぎるだけになってしまうので、その辺を考慮して施策してもらいたい。

○小松幸雄委員 これから生まれてくる子ども達のために、何が出来るのか。例えば酒田市では保育料は無料にならないのか。

○永田調整監 市のレベルでは、やっている所はない。町や村のレベルでは人数が少ないこともあり実施している所はある。

○小松幸雄委員 子ども達のために消費税を上げるのなら理解出来るので、酒田市も独自で子ども達のためにやるのだったら税金を上げることに賛成したい。ちゃんと使い道がわかるのであれば理解できる。

それから、入湯税の日帰りは75円、一泊が150円だそうだが、これが各観光施設に還元される税金のようだが、酒田市ではどのような方面に活用しているのか。

○永田調整監 入湯税は温泉施設とかに使用するために徴収するもので、多くは温泉施設の維持管理等に充当されている。

○後藤支所長 他に消防施設にも充当している。観光面では平成28年度は八幡の観光施設のほうに大きく予算が付いている。

○池田満好委員 地方交付税で還って来るたばこ税だが、たばこを買ったところに税金が払われている訳だが、以前は、個人のたばこ屋さんが多かったが現在はほとんど中央の大手コンビニであり、東京でたばこを大量に仕入れてこちらに送られてきて売るために、酒田にはなかなか税金が落ちない。八幡町や旧酒田市時代はかなりたばこ税の収入は大きかったはずである。やはり、たばこ税は買った地域に落ちるべきである。

○永田調整監 たばこ税は市町村税であり、酒田市でたばこを買った人は酒田市に税金が落ちっており、その額は4億円くらいである。

○池田満好委員 たばこをやめた人がいることもあるが、以前は8億といくらかだった。当初の頃は、税金を東京に送っていたはずで、国会議員におかしいのではと尋ねたことがある。

○佐藤康晴委員 八幡町時代で言えば、孫兵衛商店が酒田のパチンコ屋に多く収めていたので八幡町に多くたばこ税が入った。

○村上秀俊地域振興課長補佐 たばこ税は販売者が収める仕組みになっている。

○佐藤康晴委員 たばこ税はどこから仕入れているかになり、仕入れ先の事業者がその地域に払う形になっている。小売りの販売店ではなく、卸屋が払っている。

○池田満好委員 以前、八幡にも何件か卸屋があったということだ。観光面では、ロープウェイを作るなど、思い切ったことをやれば観光客は増えるし大きな宿泊施設も建てられるようになるだろう。大構想を持ったPRが大事である。PRの方法も今はインターネットの時代だが、「酒田の鳥海山」で開く人は何人いるのかなとなる。それよりもチラシで各地のエリアに配布することが効果的だろう。それから、最上川の舟下りのPRの関係で、当時、最上川の溪流を下っている笹舟が入った紙袋を作って東京に何千枚かばら撒いたことがあった。やはり口だけのPRだけでなく、現実的なPRが大切であろう。

○荒生議長 色々な話が出ましたが、提言の話に戻しまして、八幡病院の件はどうでしょうか。4つの地域でも色々な話が出たと思いますが、一條地区では、やってほしいことはなかなか出来ず、やめる話はすぐに出来るといった不満の声もあったようだ。住民の声を十分に聞いてほしいというのが一致した意見のようです。

○石川正志委員 八幡病院については、伺ったところによると区の総会で反対署名活動も有り得るということだった。こちらから病院の在り方について賛否を出す前に十分な議論をしていただくほうが大事なのではないかと。

○荒生議長 地域に住んでいる人の意見を十分に聞いてほしいという提言ということですね。5月に説明会がまたあるということで、提言には賛否をはっきり記載しないほうが私もよろしいかと思えます。

○小松幸雄委員 名称が診療所となるから、皆が抵抗を感じるのもあって、日本海病院で責任を持って分室として運営して行くんですよということを住民に理解させることが大切である。最初から診療所化で話をされることで抵抗があるのではないかと。また、八幡病院の場合は高齢者が多い訳であり、高齢者のニーズに合った眼科とか耳鼻科等の診療を充実させてもらう方向で酒田市から考慮してもらいたい。ただ、反対しても事は進まない。市の福祉部長には住民が納得するような形をお願いしたいとは申し上げている。

○池田満好委員 やはり、診療所というと土日や夜がだめだということで頭の中に出てくる。そうなると、夜に子どもが熱を出しても診てもらえないとなり、かといって個人の開業医もないので遠くの日本海病院まで連れて行かなければならなくなるので、緊急の場合など不安なのだろう。

○永田調整監 県立日本海病院と酒田市立病院の統合は医師の確保が難しくなったところから始まった。米沢の市立病院もそうだが全体の医師の確保が難しくなっており、病院経営にも影響している。八幡病院も非常に困難な状況の中で、日本海病院で一体して運営をしていただく交渉を現在行っており、実現は出来そうである。病床の維持は難しいので無床化にして日本海病院のサテライトとしてやって行きたいということであり、医師の確保を含めて日本海病院で責任を持って運営して行こうというものである。この間の説明会では「お年寄り向けの診療科目を」といった意見も出ており、そこも含めて実現できそうなものを検討している。まとめ次第、5月には案をご提示してご意見を伺いたい。そういったことに関して提言をしていただくことには、それはそれで意義のあることかと思われま

す。

○池田満好委員 そういった話をしていただけるんだったら、日本海病院と一体ということで納得する住民も多いだろう。ところが地域協議会やコミセンでの説明がいきなり「診療所化」からスタートしたのだから唐突で皆びっくりしたのだろう。説明会では「高速道路と同様に費用対効果を考えているのか」といった意見もあったようである。一方、続けられないものは続けられないことであり、いかに問題を解消してまとめるかが大切である。そして中身を濃くした説明が必要である。

○永田調整監 そういったことを踏まえて、地域に説明に入りたい。

○池田満好委員 そのような問題が出たから、うまく取りまとめてくれるのではないか。それと八幡病院の問題は平成21年度から検討委員会が出来ていたとのことだった。

○後藤支所長 それでは、観光資源を充実させるということと、子育て支援の充実、八幡病院に関してという3つを上げたいが順番はどうでしょうか。

～委員が検討した結果、①子育て、②観光、③八幡病院となる～

○後藤支所長 後ほど原案を作成して委員の皆さんにお配りしたい。

○長谷川明子委員 八幡病院に通っている近所のお年寄りも自分で運転出来る訳ではないので通うのも大変になっている。診療所化して残すのであれば、まだ通えるが、日本海病院一本になりかねないのかなと思うと通うに通えなくなってしまうので、診察できる体制は地域に残していただきたい。

○石川正志委員 酒田市の子育て支援員をやっていて、話になったことだが、大滝こどもクリニックの大滝先生も話していたが、酒田市の小児科の医師が高齢化しているということである。医師の確保の関係で現在の市立病院の場合、「この診療科目の医師が少ない」との

提言が出来るだろうが、八幡病院が日本海病院の直轄になるということで、そういった提言が出来なくなるとすればどのようなになるのか。市の福祉課では「医師が少ないので県と相談したい」とのことだったが疑問に思った。

○永田調整監 市立病院にしても民間の病院であっても医師の確保というのは大学の医学部との関係があって、市立病院だから必ず確保出来るものではない。医療の世界があって、民間だろうが公立病院だろうが、医師の確保が同じ状態で非常に難しいのが現実です。今までは市立病院があって、医大卒の医師が派遣されて何年かするとやめて帰っていることが多かったし中には市内に開業される医師もいたが最近は少なくなっている。一方、市内の小児科の開業医の医師も高齢化でやめているところもある。開業医に関しては、大病院と違い、派遣を働きかけることが出来ない。全体の医師数の不足が根本的な問題であり、なかなか打つ手が難しい。

○石川正志委員 仮に、酒田市が八幡病院を日本海病院にやってしまったら、市として提言する場はどうなるのか。

○永田調整監 日本海病院というのは県と酒田市で運営をしており、市からも出資している病院であり、関わりが無くなることは絶対にない。行政としての意見も申し上げるし病院も回答する義務があるのでご心配はない。

○池田満好委員 個人の開業医で、今まで当番医というのがあったが、それもやめるという話を聞いた。

○永田調整監 医師が高齢化しており、当番が困難になってきたということで、医師会からそのような申し出があったと聞いている。

○池田満好委員 サラリーマンと同様に土日と夜はお休みになる。

5 その他

○荒生議長 他にございますか。なければ5のその他に移ります。

～生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想の実現可能性調査（中間報告）について永田調整監が説明～

○永田調整監

- ・ 2年前から県で日本版 CCRC といった生涯活躍のまち構想を推進している。
- ・ 内容としては、地方に高齢者の住居を作って都会の人から移住してもらって住んでもら

う。

- ・アメリカ版は隔絶されているが日本版は地域と一緒に活動して行こうというもの。
- ・元気な人から移住してもらい、地域の活動にも参加してもらい住み続けてもらい、介護サービスが必要であれば、その地域のサービスを受けてもらう。
- ・平成27年度に市で業者に調査委託。
- ・調査内容としては、①地域資源や魅力の掘り起こし、②候補地の基礎調査、③候補箇所の選定で、酒田市で取り組めるとすれば、こういった事業が出来るのか提案をしてもらう。
- ・12月の中間報告の結果、「酒田市は自然を含め魅力のある地域」、「構想の実現に関しては可能性の高いところ」であった。
- ・メディカルタウン構想として、医療、介護に心配なく住み続けられるまちづくりということで八幡病院の敷地の中にそういった建物を建てて事業を実施することや大学との連携によるカレッジタウン構想等の提案があった。
- ・生涯活躍のまち構想というのは基本的に、概ね50代以上で元気な方から移住してもらうことが前提となっている。
- ・後期高齢者医療や介護保険の該当者が移住先で医療費がかかったとしても、移住元の自治体で費用を負担するという特例があり、移住先の負担はない。
- ・八幡地域は、自然やコミュニティの内容等、ポテンシャルが高いということで、八幡病院と連携した地域包括ケアシステムを構築しながらの事業ということで全国的にも優位性がある。
- ・この報告を元に平成28年度は具体的な検討を更に進めたい。
- ・移住相談を含めて、交流都市である東京都武蔵野市に窓口を来年度から設置する。
- ・先日、国の交付金の内示があり、適用になるとの連絡があった。
- ・人数としては100人位を想定。
- ・今後、皆さんからご意見やご協力をお願いすることがあるのでよろしくご承知置き願いたい。

○**荒生議長** ただ今、説明のあった日本版 CCRC について何か伺いたいこと等ありませんか。

○**池田満好委員** こういった構想は50代と言わず、子ども連れの30代などでも良いのではないか。

○**永田調整監** これが実現して住宅が出来ると、移住者だけでなく地域の人も入れるようなものを作りたいとの構想がある。実際に事業に取り組むのは民間の事業者を予定おり、その辺の模索も含めながら色々検討に入りたい。

○**高橋知美委員** とても前向きな活動と思うが、50代からとなると雇用の問題があるので。

○永田調整監 雇用の問題を考えなくても良くて移住して下さる方が一番だが、地域と一緒に色々な活動をする中で、新たなビジネスを起こす人もいると思うし、そういった人たちにサービスをするために新たなビジネスが生まれる可能性もあるのではないかな。

○高橋知美委員 移住者に対して、行政の受け皿というか相談体制を充実させて、その活動を支援するのか。

○永田調整監 行政としては当然支援を行うし、地域のコミュニティ活動も含めて一緒に入ってやって行きたい。先行事例を見ても、地域と一緒に色々な活動をしたり交流をして野菜を売ったり買ったりしている所もある。この構想は民間事業者がやるにしても、当然、市も一緒に絡んでやって行く。新年度から具体的な検討に入りたい。

○長谷川明子委員 八幡病院が診療所化しようとしているのに、ここには八幡病院を核にしてと記載があるが、八幡病院で何なんでしょうねとなる。

○永田調整監 八幡病院は無くならない。病床が無くなるという話で診療は今まで通りやるということで動いている。それを前提にした構想である。

○小松幸雄委員 八幡病院の敷地内だけで足りるのか。

○永田調整監 それはこれから考慮しなければならないが、一部は中をリニューアルして活用することも考えている。

○小松幸雄委員 その中に温泉を入れたらどうか。

○永田調整監 そういうことも考えられる。結局、市で建てる訳ではなく業者が建てるのであり、取り組めるところが出て来た場合、可能性はあるが、そうなった場合、使用料金に少し跳ね返って来ることも考えられる。運営には市でもある程度支援をしていかなければならない。

○小松幸雄委員 そば屋を営んでいるが、鳥海山荘から歩いて来る人もいて、家の前の道路が赤くなっていて、「これは何ですか」と聞かれて「鉱泉です」と言うと、びっくりされる。そういった他の地域に無いような温泉を使った施設、そういった贅沢感に誘われて都会から来る訳で、そういうものも取り入れて行けばなお一層売り込みには効果的ではないかな。

○永田調整監 候補地の選定の理由が、ゆりんこがあったり近隣にそういった施設が多くあるということも一つの決定理由にはなったということです。

○小松久美子委員 八幡病院の病室を改装してといったことを考えた時に、一つの病室を改装してもスペース的に一家庭分にはならないだろう。立て替えて、1階部分を診療所や商業施設を入れる等、利便性を考えた建物にしないと人を呼び込むには無理かもしれない。自分も老人施設に勤めており、幸楽荘等どうなるんだろうとは思ったりした。また、休日診療所なり夜間診療所を八幡に持ってきて時間帯での無医地区の対策にしては等と考えてもみた。その構想の話聞いてみても、自分の中では果たしてそれが実現するのかどうか実感がない。毎日お年寄りと関わって生活をしてきて、元気な人ばかり来る訳でもなく、いずれ介護が必要になる人たちにとって、八幡病院が再利用になるのかなと大きな疑問になる。

現在、八幡に住んでいる人だったら、民生委員の方が顔もわかる訳なので「この頃、様子どうなんだろう」とかの横のつながりがあると思うが、移住して来た場合、そういったつながりを構築するのは難しいのではと考える。趣味や話題が合うとかで輪が広がって行けば良いが、そういう人だけでもなく、今までのしがらみを捨てて移住して静かに過ごしたいといった人も来るかもしれない。そうなった時に包括のシステムがうまく機能するかという疑問に思うし、計画が実現して行くには大きな課題があるのかなと感じる。

○永田調整監 従来の老人施設とは違う形になる。出来れば在宅サービスを活用しながら終の棲家といった考え方である。移住者は地域と一緒に活動するということが前提となり、基本的にはそういう方しか来ないという形になるが、実際、移住される方と環境とか条件をよく話し合っ決めてことになる。普通のアパートみたいに、ただ一方的に来るものとは違ってくる。

○小松久美子委員 元気なうちは、人との関わりがとても好きで一生懸命活動をしていた人でも体が弱くなるにつれて先細りになるケースもあるが、面倒見の良かった人だったということで、その人に沢山集まってくれる人が居れば理想的である。悪い方向に考えるのはおかしいが、自分自身37年もそういった仕事をしていると、疑問点が多い。

○永田調整監 良い方向に持って行きたい。

○佐藤康晴委員 この資料だけ見ればそれはそれで良いと思うが、首都圏から入居者の募集をすることで、向こうとのライフラインが重要になってくるだろう。例えば、移住者の子どもたちが飛行機の最終便で来て泊れるところがあるかだとか、そういったことまでアクセスして行かないと入居者だけのことばかりでなく家族のこともある程度考えたシステムにして行かないと中々受入れが困難になるだろう。

○永田調整監 募集に関しては、各関係者に相談しているところであり、善処出来る仕組みを作って行きたい。

○高橋知美委員 他の地域みたいに一泊体験旅行とかで気軽に泊ってもらい、それをきっかけに移住することもあると思うので検討していただければと思う。

○荒生議長 酒田市に行ってみたいという魅力やポイントがあれば、移住して来る可能性があるだろう。この構想は全国各地でやっているのか。

○永田調整監 全国でやっているが、医療施設が近くにあるということが大きな魅力になっていて、安心感が全然違うと言われている。そういう意味でも医療を維持しながら、さらにシステムを整備することにより、お互いに良い方向に行けるのではと思っている。

○荒生議長 あの病室をそういった施設にするのは難しいのではとの意見もありましたが、皆さんもそう思いませんか。

○永田調整監 仮定の話だが、かなり大規模なりフォームになることも考えられる。

○小松幸雄委員 観光施設の充実の話があったが、旧八幡町に舞鶴荘やバーベキューが出来る場所があった。そういったものが出来ないものか。後藤旅館も休んでいる状態であり、もう少し活用出来ないものかと思う。

○永田調整監 ビジネスでないと中々長続きは難しいが、機会を探して色々働きかけては行きたい。

○小松幸雄委員 医療の問題で、現在、高齢者は優遇されているが、高齢になってから医療のお世話にならないような、それなりの年代への支援が出来ないものか。

○永田調整監 健康事業というのはとても大切であり、健康課でも事業を組んでおり普及をさせて行くことが結果的には医療費抑制等につながって行くと思われる。

○佐藤康晴委員 当地区には待機児童はいないと思うし、国でも介護離職のゼロを目指している。団塊の世代の我々がそういった恩恵を受けざるを得ないことになるが、特老も80人位の待機が常態化しているということで、今後も増える傾向があるのかなと思われる。そうした場合、酒田市ではどのような対策を考えているのか。

○永田調整監 自分が発言して良いのかわからないが、簡単に施設を増やすことは介護保険料が上がる一方になる。心配されて予約が多い部分もある。健康事業に取り組んでいただき、健康を維持していただくことが一番であると思っている。どうしても足りないところがあれば行政としても施設整備に向かって行かなければならないが、安易に増やして軽度者が入るといようなことは慎重に考えて行かなければならない。

- 小松久美子委員 建物を建てても職員が集まらず困っているとの話もある。
- 池田満好委員 民間の施設は高く、年金で払えるような金額ではない。
- 小松久美子委員 結局、誰かが亡くならないと入れないといった現状がある。
- 荒生議長 ほかにご意見はございませんか
- 高橋知美委員 この総合支所管内には自然観察等の色々な道具があると思うが、貸し出しの手続きはどうすれば良いのか。保育園との打ち合わせの中で、「自分たちには道具が修理中だったり、無くて、あちこちからツテを使ってかき集めている」とのことであり、ツテが無くて道具が借りられる全体の情報があれば、保育園や小学校が川遊びや山に行く等の活動がしやすくなり自然にも親しみやすくなるのではと思われる。例えば、スキー教室だったら、あそこから借りようとなるようなまとまったリストがあればと思う。
- 後藤支所長 その使いたい所で、どういった事業で、毎年やるのかといったこともあるし、学年毎に事業も違う訳であるが、聞かればここにありますよとなる。一方、使うか使わないかわからないものまでリストに上げるのは難しい。
- 永田調整監 具体的にほしい物をリストに上げてもらって、相談して行く中で、そういったものを作って提供することは出来ると思われる。
- 本間建設産業課長 そういった道具を使う目的があるから修理をしている訳であって、それでお借りするという格好に成らざるを得ないと思う。そうすると、どこかで貸してくれる所はないか等の相談は受けることは出来るが、道具の使い方等、細かい打ち合わせも当然必要になってくるので、直接お願いされたほうが良い。貸し出しの相談は乗れるが、リスト化してどこかで保管して貸し出しというのは難しいし、専門の部署が必要になって来る。
- 高橋知美委員 専門の部署に一極集中するのではなく、どこに何があるのか知っていれば先生達も頼み易いし、やり易いのかなということです。
- 後藤支所長 何を使うのかわからないとリストの作りようがない。
- 池田満好委員 去年の秋に、ここで鍋祭りをやったが、どこに何があるか全くわからなかったが、交流ホールの裏手の倉庫に入ったら、ありとあらゆる物があつた。コンクリートブロックからカラオケセットまであつた。

○高橋知美委員 どこに何があるかは、把握している人は頭に入っているが、実際に動いてくれる人しかわからない。

6 閉 会

○荒生議長 ほかにご意見はございませんか。ないようですので、閉会を副会長お願いします。

○小松副会長 活発なご意見ありがとうございました。それではこれもちまして、第6回目の地域協議会を閉会いたします。委員の皆さん、事務局の皆さんご苦労様でした。

以上